

三省堂

RIYU XIN CILIN

# 日语

# 新辞林

主编 松村明 佐和隆光 养老孟司



北京出版社

# 日语 新辞林

主编 松村明 佐和隆光 养老孟司

北京出版社

图书在版编目(CIP)数据

日语新辞林 / (日) 松村明, (日) 佐和隆光, (日)

养老孟司主编。—北京: 北京出版社, 2002

SBN 7-200-04667-1

I. 日... II. ①松... ②佐... ③养... III. 日语—词典

V. H366

中国版本图书馆CIP数据核字(2002)第052107号

著作权合同登记号: 图字01-2001-3788

Copyright © 《新辞林》 by Sanseido Co., Ltd.

Japanese reprint rights arranged with Sanseido Co., Ltd.

through Japan UNI Agency, Inc.

2002年日文影印版权权属北京出版社

版权所有 不得翻印

日语新辞林

RIYU XIN CILIN

[日] 松村明 佐和隆光 养老孟司 主编

\*

北 京 出 版 社 出 版

(北京北三环中路6号)

邮政编码:100011

网 址: www.bph.com.cn

北京出版社出版集团总发行

新 华 书 店 经 销

北 京 瀛 洲 印 刷 厂 印 刷

\*

880 × 1230 32开本 70.5印张

2002年9月第1版 2002年9月第1次印刷

印数 1-2 000

ISBN 7-200-04667-1/H · 110

定价: 150.00元

# 序

《日语新辞林》是日本著名语言学家、辞书编纂大师松村明先生主编、日本著名权威辞书出版社三省堂出版发行的一部新型语言工具书。该书根据日本大型国语辞典《大辞林》第二版编纂而成，出版后，由于收词量大、新颖、实用，深受广大日本读者的喜爱，并被列入日本家庭必备图书。

语言是随着社会的发展而发展的。随着21世纪的到来，世界发生了翻天覆地的变化。尤其是政治、经济、贸易、金融等领域更是日新月异。人们在日常生活中无一天不目睹耳闻新事件、新现象、新语言。《日语新辞林》正是适应这一历史变化而问世的。如今北京出版社影印出版该辞典，可以说为我国广大日语使用者解了渴，提供了最全面、最具有权威性和最新的日语指导，为辞书领域增添了一部经典。我相信，这样一部高质量的大部头辞典的问世，无疑将给中国辞书界带来一阵惊喜，也将给中国的广大日语使用者提供一个极佳选择。

《日语新辞林》在三方面具有与众不同特色：

一、该书是迄今为止我国已出版的同类辞书中最大的一部日语辞典。它收词有15万条之多，其中大量的百科词汇和新外来语词汇是从一般词典上查找不到的。该书以最强的力度反映了日语的语言特色。尤其百科类条目的收录和注释的内容更加反映了日本的文化特色。有

关日本事物的条目尽量多收，介绍的内容也特别丰富。

二、该书作为一部大型辞典，对词义的阐释也详尽无遗，因而就其总的语言信息量和覆盖面来说，是其它词典无法比拟的。本辞典配有 550 多幅精美的插图，在状物、释义及述事上可弥补单纯文字解释之不足，使读者能够通过直观形象加深对词义的感性认识，帮助读者理解词义。

三、该辞典既是一部语言辞书，也是一部浓缩的百科全书。它收入了世界各国的人名、地名、作品名、动植物名、物产品、机构组织名称、事件名称等条目多达数万条，对其它各门学科的专业名词和术语，更是广收博采。医学和生物学等名词都尽量注出拉丁文学名，化学名词如化合物等都列出分子式，为广大读者提供了多方面的知识。因此，我们说这部辞典是阅读和翻译日本图书报刊与文献资料的必备工具书，似乎并不过分。

该辞典适合大学院校师生、广大日语翻译工作者、外交外事工作者以及日本问题研究专家使用。

张录贤

2002 年 5 月于北京

# 序

私たちは先に冊子と CD-ROM が一緒になった『ハイブリッド新辞林』を刊行した。幸いなことに同書は読者からの好評を得、新しい時代の辞書として利用していただいている。ただ、一方で編集部には読者から「冊子だけがほしいのだが…」という声が数多く寄せられており、こうした読者からの声にお応えするべく、私たちはここで新たな形で『新辞林』を刊行することにした。

『新辞林』がさらに読者のご支持を得て、活用されてゆくことを願うものである。

1999 年 6 月

監修 松村 明  
佐和隆光  
養老孟司

21 世紀を目前に控え、世界は大きく変わろうとしている。政治・経済・金融などあらゆる分野で、変化が加速化し、新しい事件、新しい現象、新しい言葉を、新聞・TVなどで目にし耳にしない日はないといっても過言ではない。

休むことなく動きつづける現代社会に登場する「言葉」「事項」などを、一冊のハンディーな本にできるだけ多く収録し、かつその意味内容を簡潔でわかりやすく解説した辞書が作れないか、そのような私たちの思いを形にしたものが本書の初版に当たる『辞林 21』（1993 年刊）であった。

しかし刊行以来 5 年が経過する中で、世界全体でも日本国内でも、さまざまなことが生起し、5 年前とは様相が一変してしまった事柄も少なくない。私たちが 1998 年という現時点で改訂新版を刊行しようとするのも、こうした諸事象の変化の加速化と多様化に関係があると言えるだろう。

以上のような問題意識から、今回新たに収録した項目も政治・経済・法律・医学・環境・通信・コンピューターなど、

とりわけ変化の激しい分野の用語が中心となっている。また、最近とみに増加しているカタカナ語を幅広く収録するとともに、MOF、URLなどのアルファベット略語についても、巻末に「アルファベット略語辞典」として収録した。一方、本書は、新しい事項の記述に意をそそいでいるが、国語辞典としての記述にその基本を置いていることは言うまでもない。巻末に置いた「JIS 漢字字典」も本書の「字引き」としての機能の向上をはかつての配置である。——中略——

本書は、先ほども述べたように1993年に刊行された『辞林21』の改題・改訂版である。また、初版の『辞林21』は大規模国語辞典『大辞林初版』をもとに作られているが、本書は『大辞林第2版』のデータベースをもとに作られている。『大辞林』が読者の支持を受けているように、本書が実務の第一線で活躍されている人々、とりわけ若い人たちの身近に置かれて日々活用されることを願うとともに、読者諸賢の忌憚ない御批正をいただいてさらに良い辞書になってゆくことを念じてやまない。

1998年6月

監修 松村 明  
佐和隆光  
養老孟司

# 凡例

## 【編集方針】

1. この辞典は、現代の情報化社会に生きる人々にとって欠かせない、現代語・新語・外来語および最新の技術用語・専門用語などの百科語を収める、現代〔国語・百科〕辞典として編集したものである。
2. 日本および外国の地名・人名をはじめ、作品名・機関名・構築物など固有名詞の類も多数、かつ可能な限り最新のもののまで収めるように努めた。
3. 解説は、原則として現代語としての意味を記述し、簡潔・平明な文章で書くように心掛けた。
4. 解説に加えて、約 550 の図版、その他各種のデータを掲げた。
5. 外来語・百科語・専門語等の項目が多く、欧文や数字によるデータ類が多いことを考慮して、横 3 段組みによる読みやすい紙面を設計した。
6. MOF, URL など、いわゆるアルファベット略語は、検索の便を考慮し、「アルファベット略語辞典」として、本文の後に掲げた。
7. 巻末に「部首別 JIS 漢字字典」として、部首別に JIS 漢字を掲げ、各漢字の代表的音訓を示した。

## 【見出し】

1. 見出しの示し方
  - (1) 見出しは原則として「現代仮名遣い」（昭和 61 年 7 月内閣告示）の方式によって、太字（ゴシック体）の仮名で示した。
  - (2) 和語・漢語は平仮名、外来語は片仮名で示した。外来語の長音を表すには「ー」を用いた。
  - (3) 活用する語は、原則として終止形を見出しとした。ただし、形容動詞は語幹を見出しとした。
  - (4) 動詞・形容詞は、語幹と語尾の間に「・」を入れて示した。語幹・語尾の区別のできない語には示さなかった。
2. 見出しの配列
  - (1) 見出しは五十音順に配列した。外来語の長音符「ー」は、直前の仮名の母音に当たる仮名に相当するものとして配列した。
  - (2) 清音・濁音・半濁音の順とした。
  - (3) 促音・拗音を先に、直音を後にした。

(4) 同じ音の場合は、平仮名を先に、片仮名を後にした。

(5) 見出しの仮名が同じ場合は、次の順序で配列した。

### ① 品詞の順。

名詞・代名詞・動詞・形容詞・形容動詞・連体詞・副詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞・接頭語・接尾語・連語

### ② 動詞は、活用の種類の順。

五段・上一段・下一段・カ変・サ変

### ③ 漢字表記のないものが先。

### ④ 外来語は、原語の綴りのアルファベット順。

(6) 慣用句・ことわざの類は、親見出しの後に、~~行~~を改めて五十音順に配列した。親見出しに当たった部分は原則として「ー」で省略した。

## 【表記欄】

1. 見出しに当てられる、漢字を中心とする標準的な書き表し方を【 】の中に示した。二つ以上の表記法がある場合は、一般的と思われる順に併記した。
  - (1) 「常用漢字表」「人名用漢字別表」の漢字は、いわゆる新字体を用いた。
  - (2) 送り仮名は、「送り仮名の付け方」（昭和 48 年 6 月内閣告示）に基づいて示した。
  - (3) 外来語と和語あるいは漢語と複合した見出し語は、原則としてその外来語に相当する部分を「ー」で示した。必要に応じて、その複合語に相当する原語を示した。
2. 外来語については、【 】または〔 〕の中に、原語の綴りを掲げ、その言語名を記した。言語名は、フランス→フ、ドイツ→ド、ロシア→ロ、梵語→梵などと省略形で示した。ただし、英語の場合は、原則として省略した。
  - (1) ロシア語・ギリシャ語・ベルシャ語などローマ字を使用しない言語は、適宜ローマ字綴りに直して記した。
  - (2) 地名・人名などには、原則として国籍を示さず、解説文中で理解できるようにした。
  - (3) 原語音から著しく転訛した外来語や、外来語に擬して日本で作られた語は、〔 〕の中にその語源などを示した。

## 【品詞・活用】

1. 見出し語には、品詞名・活用の種類などを、



( )内に略語で示した。略語は凡例末尾の「略語一覧」を参照のこと。

2. 名詞は品詞の表示を省略した。
3. 動詞には、活用の種類を示した。
4. 名詞のうち、「一と」(副詞)、「一たる」(連体詞)の用法をもつ語は、(は)の形で示した。

### 【解説】

1. 解説は簡潔・平明を第一とした。漢字・仮名遣い・送り仮名はおおむね「常用漢字表」「現代仮名遣い」「送り仮名の付け方」に従った。
2. 語義・用法の区分には、次の記号を用いた。
  - (1) 一般には、①②③…を用いた。さらに細かく分ける必要がある場合は、⑦⑧⑨…を用いた。また①②③…の上位区分として①②③…を用いた。
  - (2) 品詞が異なる場合は、①②③…を用いた。
3. 必要に応じて語源・語誌、位相・用法などを〔 〕で囲んで記した。
4. 対義語は ↔ を用いて示した。
5. 参照項目は → を用いて示した。
6. 解説をすべて他の項目で行なった場合は、その見出しを ⇒ の後に示した。
7. 人名には、解説の冒頭に生没年を記した。

### 【用例】

1. 意味・用法の理解を助けるため、具体的な用例を語釈の後に「 」で囲んで記した。
2. 用例文の見出し語に相当する部分は「一」で略した。
3. 活用する語の場合は、語幹の部分を「一」で示し、「・」を付けて活用語尾を記した。

### 【図版】

解説に加えて、約 550 の図版を掲げた。動植物・器具類・数式グラフなど、多岐に及ぶジャンルから選定を行なった。

### 【その他】

1. 専門用語には、必要に応じ、解説冒頭の〔 〕の中に分野名を略語で示した。
2. 地名・人名の項目のうち、中国・朝鮮の現代地名・現代人名には、原則として原語音に近い形を片仮名で解説末尾に示した。
3. 人名の項目のうち、日本人名に関しては物故者に限った。

4. 外国の作品名には、その原題を示した。
5. 年号は西暦紀元年数を用いた。解説中に 4 桁の年数が続く場合、2 度目以降は原則として初めの 2 桁を省略した。
6. 「アルファベット略語辞典」,「部首別 JIS 漢字字典」の凡例は、それぞれの最初のページを参照のこと。

## 【略語一覧】

## 〔品 詞〕

- (代) 代名詞  
 (動五) 動詞五段活用  
 (動上一) 動詞上一段活用  
 (動下一) 動詞下一段活用  
 (動カ変) 動詞カ行変格活用  
 (動サ変) 動詞サ行変格活用  
 (形) 形容詞  
 (形動) 形容動詞  
 (一と) 「一と」(副詞), 「一たる」(連体詞)の  
 形で用いられる語  
 (連体) 連体詞  
 (副) 副詞  
 (接続) 接続詞  
 (感) 感動詞  
 (接頭) 接頭語  
 (接尾) 接尾語

- 〔物〕 物理学  
 〔化〕 化学  
 〔天〕 天文学  
 〔地〕 地学  
 〔電〕 電気工学  
 〔建〕 建築  
 〔音〕 西洋音楽

## 〔原籍表示〕

- 和 和製語  
 イ イタリア語  
 ギ ギリシャ語  
 ス スペイン語  
 ド ドイツ語  
 フ フランス語  
 ラ ラテン語  
 ロ ロシア語  
 梵 梵語  
 英 英語

## 〔分野表示〕

- 〔哲〕 哲学  
 〔論〕 論理学  
 〔倫〕 倫理学  
 〔仏〕 仏教  
 〔言〕 言語学  
 〔心〕 心理学  
 〔法〕 法律  
 〔経〕 経済  
 〔教〕 教育  
 〔医〕 医学  
 〔生〕 生理学  
 〔数〕 数学

# 目次

|    |       |
|----|-------|
| 序  | i~ii  |
| 凡例 | iii~v |

|    |        |
|----|--------|
| 本文 | 1~2053 |
|----|--------|

|         |         |         |         |          |
|---------|---------|---------|---------|----------|
| あ——1    | い——87   | う——156  | え——193  | お——233   |
| か——296  | き——430  | く——518  | け——568  | こ——613   |
| さ——722  | し——785  | す——977  | せ——1019 | そ——1081  |
| た——1113 | ち——1187 | つ——1234 | て——1255 | と——1303  |
| な——1371 | に——1400 | ぬ——1428 | ね——1431 | の——1444  |
| は——1458 | ひ——1544 | ふ——1600 | へ——1681 | ほ——1712  |
| ま——1764 | み——1804 | む——1834 | め——1849 | も——1867  |
| や——1888 |         | ゆ——1908 |         | よ——1927  |
| ら——1950 | り——1967 | る——2000 | れ——2007 | ろ——2022  |
| わ——2039 |         |         |         | をん——2053 |

## 〈付録〉

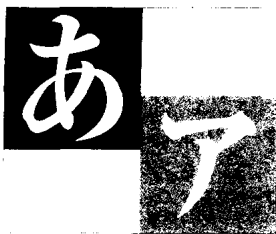
|             |      |
|-------------|------|
| アルファベット略語辞典 | 1~82 |
|-------------|------|

|              |        |
|--------------|--------|
| 部首別 JIS 漢字字典 | 83~182 |
|--------------|--------|

|         |         |
|---------|---------|
| 記号コード一覧 | 183~184 |
|---------|---------|

|           |         |
|-----------|---------|
| 博物館・美術館情報 | 185~190 |
|-----------|---------|

|      |  |
|------|--|
| 編集後記 |  |
|------|--|



あ【阿】〔梵a〕梵語の第1字母の音読。→  
呼2

あ【腔】話しことばが重度に障害され、こ  
とばをまったくあるいはほとんど発す  
ることができない状態。

あ【亜】①〔接頭〕①…に次ぐ。「熱帯」②  
中心原子の酸化数が、基準となるものより  
小さいことを表す。「一硫酸」②【ア  
至細曲】。「東一」

ああ【副】あのように。

一言えはこう言う 何かと理屈をつけ  
て、従わないさま。

アーカイバー【archiver】 コンピュータ  
ソフトウェアの。データファイルの  
管理保存のためのソフトウェアで、特に、  
大きなファイルを圧縮するためのソフト  
ウェアをいうことが多い。→圧縮

アーカイブ【archive】 ①大規模な記録  
や資料のコレクション。また、公文書の保  
管施設をいう。②デジタル化されたデー  
タを圧縮する技術や方法。より少ない情  
報量でデータの転送・保存を行うことが  
できる。

アーガイルチェック【argyle check】  
〔スコットランドの地名から〕2色以上の  
菱形格子の上に斜め格子を重ねた柄。

アーガイルチェック



アーカンソー【Arkansas】 アメリカ合  
衆国南部の州。林業・綿花栽培が盛ん。州  
都リトルロック。

アーキタイプ【archetype】 原型。元型。  
祖型。

アーキテクチャー【architecture】 ①建  
築。建築学。建築様式。構造。②コンピ  
ュータを機能面から見たときの構成方  
式。記憶装置のアドレス方式、入出力装置  
の構成方式などをさす。一般に、同じアー  
キテクチャーのコンピュータには、ソ  
フトウェアの互換性がある。

アーギュメント【argument】 議論。主  
張。論争。

アーク【arc】〔円弧の意〕アーク放電の  
際、両極間に発生する光の弧。電弧。

アークかむつ【→加熱】 アーク放電の際  
に発生する熱で加熱すること。制御が容  
易で清浄な高温状態を作り得る。溶接(ア  
ーク溶接)や電気炉(アーク炉)などに利用  
する。被加熱物(母材)を一方の電極とす  
ることが多い。

アークスペクトル【arc spectrum】 ア

ーク放電が発生する光のスペクトル。  
アークとう【→灯】 アーク放電に伴う発  
光を利用した光源。特に、炭素電極による  
大気中でのアーク放電灯をさす。明治初  
期に街路灯に用いられた。のちチラー  
イト・映写用光源・医療用紫外線灯などに  
利用。アーク・ライト。

アークかむつ【→熱】 アーク放電の際に  
発生する高熱。3000℃以上に達する。

アークほうでん【→放電】 気体中での放  
電の一。弧状の強い光と高熱を発生し、気体  
放電としては最も電流密度が大きく、電  
圧降下が少ない電弧。

アークようせつ【→溶接】 電気溶接の一。  
アーク熱を利用する溶接。

アークライト【Richard Arkwright】  
(1732-1792) イギリスの発明家。1768  
年、水力を用いた紡績機械を発明。紡績工  
場を建設、イギリス産業革命の先駆的役  
割を果たす。

アークろ【→炉】 アーク熱を熱源とする  
電気炉の総称。鉄鋼・合金製造に用い  
る。

アーケイック【archaic】 →アルカイック

アーケード【arcade】 ①連続したアーチ  
を列柱で支える構造物。また、列柱に囲ま  
れ、アーチ形の天井をもった空間。拱廊  
等。②商店街などの通路上部に、屋根を  
つけた施設。

アーケードゲーム【arcade game】 主に  
ゲームセンターなどに設置されているテ  
レビゲーム機を指す。大型のものには、立  
体的な映像や音響、動きや振動を体感さ  
せるための装置が備えられていることも  
多い。

アーサーおうでんせつ【→王伝説】 6世  
紀頃サクソンと戦ったケルトの伝説的英  
雄アーサー(Arthur)王と円卓騎士団を  
めぐる一連の物語。中世以降、騎士たちの  
冒険や恋愛、聖杯探求の物語などが加え  
られた。また、トリストラン伝説と結びつ  
いて一大物語群に発展した。

アースかんど【→感度】 →アース感度  
あした(連体) あのような。あんな。「一  
やり方では、やがて嫌われる」

アース【earth】〔地球・大地の意〕電気機  
器と地面とを銅線などの導体でつなぐこ  
と。また、その導体。大地と機器を同電位  
に保つことによって機器の電位が異常に  
上昇することを防いだり、雑音を低減し  
たりする。接地。

アースアート【earth art】 地球の大地な  
どに大規模な造形活動をおこない、自然  
と人間の壮大な交流を実感しようという  
芸術行為。

アースウィンドアンドファイアー  
【Earth, Wind & Fire】 1970年代初  
期から活躍するアメリカのバンド。卓越  
したテクニクと歌唱力で多くのヒット  
曲を生む。

アースカラー【earth color】 褐色など  
の、大地を思わせる色。

アースクエーク【earthquake】 地震。

アースデー【Earth Day】 地球の日。4月  
22日。保護運動の統一の日として1970  
年にアメリカの市民団体が始め、80年か  
らは全世界に呼びかけた。

アースペネトレーター【earth-  
penetrator】 地中貫通型爆弾。地下の  
軍事施設破壊のためにアメリカで開発さ

れた小型軽量の核兵器。

アースワーク【earth work】 →ランド・  
アート

アーセナルかん【→艦】 【arsenal ship】  
多数の巡艦ミサイルや弾道ミサイルを艦  
から直接遠距離攻撃できるアメリカ海軍  
のミサイル戦艦。

アーチ【arch】 ①弓形に積み上げた石や  
煉瓦などによって上部の荷重を支える  
構造。窓・門・橋桁などにみられる。迫持  
柱。②祝賀会・運動会などで仮設される  
門。上部を弓形にし、常緑樹の葉でおお  
う。緑門等。③円弧。弓形。虹の一。④  
野球で、ホーム・ラン。

アーチー【Archie】 インターネット上  
にあり、一般に公開されているFTPサー  
バーからファイルを検索したり、収集し  
たりするシステム。アーキーととも。

アーチェリー【archery】 ①西洋式の弓  
術。また、それに用いる弓。洋弓。②洋弓  
を用いるスポーツ。標的(ターゲット)を  
のらいつけて、得点を争う。

アーチきょう【→橋】 主桁梁をアーチ構  
造とした橋。

アーチスト【artist】 芸術家。特に、美術家  
・演奏家。アーティスト。

アーチダム【arch dam】 上流に向かっ  
てアーチ状に張り出した構造のダム。水  
圧をアーチによって両岸で支えるように  
したもの。拱運堤等。

アーツアンドクラフツうんどう【→運動】  
【arts and crafts movement】 19世紀後  
半、イギリスで起こった美術工芸運動。産  
業革命後の機械による大量生産に対し、  
職人の手仕事による生産と機能的・実用  
的な美の追求を唱えた。

アーティキュレーション【articulation】  
①発音の明瞭度。歯切れ。②音楽の演奏  
において、各音の切り方、あるいは次の音  
との続け方のこと。演奏上、フレーズ内部  
の分節を明確にする表現手段として重  
要。レガート・テヌート・スタッカートなど。

アーティキュル【article】 ①新聞や雑誌の  
記事・論説。②法令や契約の条項。

アーティスティック【artistic】(形動) 芸  
術的なさま。優雅なさま。趣のあること。

アーティスティックインプレッション  
【artistic impression】 →プレゼンテ  
ーション

アーティスト【artist】 →アーティスト

アーティチョーク【artichoke】 キク科  
の多年草。高さ約1.5m。夏、アザミに似た  
頭花をつける。若い花の花托と萼の肉質  
部を食用にする。朝鮮アザミ。

アーティチョーク



アーティフィシャル【artificial】 (形動)  
人工的。人為的。

アーティフィシャルインテリジェンス  
【artificial intelligence】 →人工知能  
等。

あ

**アーティフィシャルフラワー** [artificial flower] 造花。

**アート** [art] 芸術。美術。「モダン—」

**アートアンドテクノロジー** (Experiments in Art and Technology) 1966年にジョン・ケージやラウシェンバークなどさまざまなジャンルの芸術家とベル電話研究所の技師たちが結成したグループ。EAT。

**アートアンドランゲージ** [Art and Language] 1968年にイギリスで結成されたコンセプチュアル・アート集団。同名の雑誌を創刊し、芸術を芸術たらしめる言語やシステムの問題をさまざまな手法で追求しようとした。

**アードルフ** [aardwolf] ハイエナ科の一種。褐色で黒い縞があり、特徴的なたがみをもつ。主にシロアリを食する。アフリカの南部と東部に分布し、家畜を襲うという誤解から、駆除されて減少した。ツチオオカミ。

**アート1** [一紙] 印刷用紙の一種。乾物性の白色顔料と接着剤などを混ぜた塗料を塗り、光沢機にかけて滑らかで緻密な紙面にした洋紙。再現性がよく、写真版印刷などに広く用いる。

**アートシスター** [art theater] 芸術映画や実験映画を専門に上映する映画館。

**アートスクープ** [art+landscape] 〔考〕建物や道路など、都市のあらゆるものを空間としてとらえ、芸術(アート)とデザインの手法を取り入れて空間づくりを行うこと。

**アートタイトル** [art title] 背景に絵や写真を使ったり、図案化した文字を使ったりして構成した字幕。意匠文字。

**アートタイプ** [artotype] →コロタイプ

**アートディーラー** [art dealer] 画商。美術商。

**アートディレクター** [art director] ①映画・演劇などで、衣装・舞台装置・小道具・照明などを指導する人。美術監督。②広告製作で、デザイン・コピーなどを総合的に企画・決定し、製作する人。

**アートフェア** [art fair] 画商たちによる見本市。美術界に大きな影響力をもつ。ケルン・パーゼル・シカゴ・パリのものが有名。

**アートマネジメント** [art management] さまざまな芸術活動の企画・運営を、経営的視点から管理すること。

**アートマン** [ātman] 〔我々〕と訳す。インド思想における精神的・永久的実体。ベダでは、個や世界における気息・靈魂・生命などとしてとらえられる。

**アドラー** [Alfred Adler] (1870-1937) オーストリアの精神分析学者。人間行動の根源を権力への意志あるいは優越への欲求に置き、それが満たされないことに基づく劣等感や補償作用を重視した。

**あゐのむぎとうげ** [あゐ野麦峠] 記録文学。山本茂美著。1968年(昭和43)年。飛騨の女工が、景境の野麦峠を越えて伊勢湖畔の製氷工場で過酷な労働に従った記録。

**アーノルド** [Arnold] ①(Edwin A.) (1832-1904) イギリスの詩人。釈迦の生涯・教義を長編無韻詩「アジアの光」に著

した。②(Matthew A.) (1822-1888) イギリスの詩人・批評家。文明批評でも発展させた「教養と無秩序」などの著がある。

**アーバス** [Diane Arbus] (1923-1971) アメリカの写真家。ファッション写真家として活動するが、1960年代から奇形者・衣装倒錯者など、社会からはきき出された人々を撮影して衝撃を与える。

**アーパネット** [ARPANET] 米国防総省の高等研究計画局(DARPA)が1969年に開発し71年頃から運用を開始した、全米規模のコンピューター・ネットワーク。90年以降その役割はNSFNET(全米科学財団ネットワーク)などに引き継がれ、後にインターネットへと発展。

**アーバノロジー** [urbanology] 都市を研究する学問。都市学。

**アーバン** [urban] 都市の。都会の。都会風の。

**アーバンコンプレックス** [urban complex] 都市部の公共施設と建築物の関係を見直し、複合的・重層的に利用しようという再開発。複合空間基盤施設整備。

**アーバンデクライン** [urban decline] 〔都市衰退の意〕就業者の流出や人口減少などにもなっている新しい都市問題をいう語。

**アーバンデザイナー** [urban designer] 都市計画においてマスター・プランに沿って具体的に都市設計を行う専門家。

**アーバンデザイン** [urban design] 都市を構成する建築群などの形態を重視して、都市環境・都市空間を計画・設計すること。都市設計。

**アーバンフurniture** [urban furniture] ベンチや電話ボックスなど、機能とデザインを重視した公園や街路における付属的な建築物。

**アーバンプランナー** [urban planner] 都市計画において都市のマスター・プランを立案・策定する専門家。

**アーバンライフ** [urban life] 都市生活。都会風の暮らし。

**アーバンリゾート** [urban resort] 都市近郊に位置しながら自然環境を巧みにとり入れたリゾート。

**アービトラージ** [arbitrage] →裁定取引。

**アービング** [Irving] ①(John L.) (1942-) アメリカの作家。作「ガープの世界」「ホテル・ニュー・ハンプシャー」「サイダーハウス・ブルー」など。②(Washington I.) (1783-1859) アメリカの小説家・随筆家。著「ニューヨーク史」「スケッチ・ブック」など。

**アープ** [Wyatt Berry Stapp Earp] (1848-1929) アメリカ西部のガンマン・保安官。アリゾナ州トームストンであった、いわゆる OK 牧場の決闘の中心人物。

**アーベル** [Abel] ①(Niels Henrik A.) (1802-1829) ノルウェーの数学者。五次以上の代数方程式が、一般には代数的に解けないことを証明。楕円関数論の確立など近代解析学の新しい展開に貢献。②(Othénio A.) (1875-1946) オーストリアの古生物学者。層序的記載古生物学にあまたらず、古生態を研究。古生物の生活

復元を目指した。

**アーペル** [Karl-Otto Apel] (1922-) ドイツの哲学者。カントのアプリオリズムを言語論的に転換して超経験的語用論を主張。ハーバーマスとともに討論倫理学の建設にも尽力。著「哲学の変貌」など。

**アーヘン** [Aachen] ドイツ西部、オランダ・ベルギーとの国境近くの都市。硫黄泉が湧出し、保養地としても有名。

**アーベント** [F. Abend] ①夕方。晩。②夕方から開く、講演会・音楽会などの催し。日本語の「…の夕べ」にあたる語。「ベートーベン—」

**アーヘンのわやく** [一の和約] 1748年、アーヘンで結ばれたオーストリア継承戦争の講和条約。オーストリアはマリア・テレジアの王位継承を認められたが、シュレジエンをプロイセンに与えたほか領土の一部を失った。

**アーマチュア** [armature] 回転電気機械の主巻線およびその巻線をおさめた鉄心の総称。この部分で電気エネルギーを機械エネルギーに変える。電機子。

**アーミー** [army] 陸軍。

**アーミッシュ** [Amish] キリスト教メソッド派の一派。また、その信徒。スイスのアマン(J. Ammann, 1644-1644-1730頃)により創始。アメリカのペンシルベニア州を中心に居住。自動車や電気を用いず、特異な生活様式を保持。

**アーミン** [ermine] イタリカのオコジョの英名。また、その毛皮。エルミン。

**アーム** [arm] 腕。また、本体から腕状に出ている部分。

**あゐじょう** [唯無情] ユゴーの小説「レミゼラブル」の黒岩涙香訳による日本語訳。

**アームストロング** [Armstrong] ①(Edwin Howard A.) (1890-1954) アメリカの電気技術者。周波数変調方式(FM)の考案のほか、再生回路・スーパーヘテロダイン回路を発明。②(Louis A.) (1900-1971) アメリカの黒人ジャズ・トランペット奏者・歌手。愛称サッチモ。ジャズの天才として、楽譜奏者・歌手に多大な影響を与えた。③(Neil Alden A.) (1930-) アメリカの宇宙飛行士。1969年、アポロ11号船長となり人類として初めて月面に降り立った。④(William George A.) (1810-1900) イギリスの技術者・企業家。砲身内に鋼線を螺旋状に巻いたアームストロング砲を発明。

**アームチェア** [armchair] ひじかけいす。

**アームバンド** [armband] ワイシャツやブラウスの袖をたくし上げるための、装飾性のあるバンド。腕バンド。

**アームホール** [armhole] 洋服の袖ぐり。また、その寸法。

**アームレスト** [armrest] 椅子や座席の肘掛け。

**アームレット** [armlet] 腕輪。腕飾り。

**アームロック** [armlock] レスリングで、相手の腕が動かぬように固定する技。

**アームス・パピルス** [Ahmes Papyrus] コリンド・パピルス

**アーメダバード** [Ahmedabad] インド中西部の都市。綿工業が盛ん。アーマダバード。

**アーメン** [amen] (ヘブライ語で、まこと

に、たしかに、の意)キリスト教徒が祈禱  
♪、賛美歌、信衆告白の終わりに唱える言  
葉。アメン。

**アーモンド** [almond] バラ科の落葉高木。  
果実は平たく、果肉は薄い。食用。仁に  
苦みのあるものは薬用にする。アマン  
ド。アモンドウ。扁桃。巴旦杏だ。

**アーランガー** [Joseph Erlanger] (1874-1965) アメリカの生理学者。神経  
信号の電気的変化の測定に陰極線オシ  
ログラフを導入し、神経生理学の発展に貢  
献。

**アーリアサマージ** [Ārya Samāj] イン  
ドのヒンズー教改革運動団体。1875年ダ  
ヤーナнда Sarasvatī, 1824-1883)が創設。  
「ベダに殉れ」をスローガンに、階級制・  
男女差別に反対し、不可触民的地位  
向上など多くの社会改革を推進。

**アーリア人** [一人] ①貴い、の意の梵語  
āryaから。①インド・ヨーロッパ語族に  
属する言語を話し、紀元前 1500 年頃中  
央アジアからインドやイランに移住した  
古代民族。現代のヨーロッパやアジアの  
多くの民族と文化的共通性をもつ。③ナ  
チスが用いた人種分類の一、起源を異に  
するセム(ユダヤ)人に対し、アーリア人  
であるゲルマン民族の優越が主張され  
た。

**アーリー** [early] 早い、初期の。  
**アーリーアメリカン** [Early American]  
アメリカの英領植民地時代・開拓時代の  
建築や家具などの様式。

**アーリーバード** [early bird] 早起き鳥。

**アーリマン** [Ahriman] ゾロアスター教  
の悪神。暗黒・無知などの神格化されたも  
の。善と光明の神アフラマズダと対立・  
抗争し、滅ばされた。

**アールリントン** [Arlington] アメリカ合  
衆国、バージニア州北西部のポトマック川  
の西岸にある国立の墓地。ワシントン市  
の対岸に位置する。無名戦士の墓で知ら  
れる。

**アール** [fare] メートル法の面積の単位。  
1アールは 100m<sup>2</sup>。約 30.25 坪。約 1  
畝。記号 a

**アール** [R・r] ①英語のアルファベットの  
第 18 字。②[数]半径(radius), 比(ratio)  
を表す記号(r)。③[f Röntgen] (物)X  
線の照射量を表す単位レントゲンの記  
号(R)。④右(right)を表す記号(R)。↔  
L

**アールアンドディー** [R & D] →研究開  
発(研究開発)

**アールアンドディーレシオ** [R & D-]  
(research and development ratio) 企  
業の研究開発への取り組みを示す指標  
で、通常、売上高に対する研究開発費の比  
率で見る。

**アールアンフォルメル** [art informel]  
→アンフォルメル

**アールエッチいんし** [Rh 因子] (Rh は  
アカゲザル(rhesus monkey; rhesus  
macaque)の種名から) 1940 年、ランド  
シュティナーとウイナーによって発見さ  
れた、ヒトとアカゲザルの赤血球に共通  
する抗原。この抗原をもつ血液を、この抗  
原をもたない人に繰り返し輸血すると溶  
血反応を示し、生命が危険になる。

**アールエッチしきけつえき**が [Rh 式血  
液型] Rh 因子の有無によって分ける、  
ヒトの血液型。Rh 因子をもつものを Rh  
プラス、もたないものを Rh マイナスと  
する。メンデル式遺伝によって決定され、  
Rh プラスが優性、Rh マイナスの発現頻  
度は人種によって違い、日本人では  
0.5%、欧米人では約 15%。

**アールエヌエー** [RNA] (ribonucleic  
acid) →リボ核酸

**アールグレイ** [Earl Gray] (イギリスの  
グレイ伯爵が紹介したことによる。アール  
は伯爵の意) ベルガモット油で風味づけ  
をした紅茶の商品名。独特の香りがある  
ため、アイスティーなどに利用される。

**アールシー** [RC] →鉄筋コンクリート  
**アールシーこうそう** [RC 構造] →鉄筋  
コンクリート構造?

**アールジービーしんごう** [RGB 信号]  
[RGB は red, green, blue から] ビデオ  
信号の一。カラー映像の三原色の信号を  
独立した三つの信号として扱う。帯域が  
広いので鮮明に映像を伝送できる。↔コ  
ンポジット信号

**アールディーエフ** [RDF] (refuse  
derived fuel) 可燃ごみを利用した固形燃  
料。ごみを粉砕し、腐敗防止のために石灰  
などを混ぜて圧縮加工したものを、固形化  
燃料。

**アールデコ** [art déco] (arts déco-  
ratifs の略。装飾美術の意) 1910 年代か  
ら 30 年代にかけて、パリを中心に西欧で  
栄えた装飾様式。それ以前のアールヌー  
ボーが曲線を主とするのに対し、現代都  
市生活に適した実用的で単純・直線的な  
デザインを特徴とする。1925 年様式とも  
いう。

**アールト** [Alvar Aalto] (1898-1976)  
フィンランドの建築家。風土的な形態と  
曲面を駆使した空間構成による独特の作  
風で知られる。代表作にバイミオのサナ  
トリウム・ヘルシンキ文化会館・オタニ  
エ工科大学講堂などがある。

**アールヌーボー** [art nouveau] (新  
芸術の意) 19 世紀末から 20 世紀初頭  
にかけて、ヨーロッパ各国の建築・工芸・絵  
画などの諸芸術に流行した様式。モチ  
ーフを主に植物の形態に借り、曲線・曲面  
を用いて装飾的・図案的に表現した点に特  
徴がある。ビザリー・マッキントッシュ  
などが代表的。

**アールブイ** [RV] (recreational vehi-  
cle) スポーツや野外のレクリエーション  
を目的とした車両の総称。オフロード  
専用車やミニバンなど。レクリエーショ  
ナル・ビークル。

**アールブリュト** [art brut] フランス  
の芸術家デュビュッフェの用語。理性が  
関与しない芸術作品の意。芸術家ではな  
く、幼児や精神病患者が自分自身のため  
につくった表現物の総称。原生芸術。

**アーンドラちよう** [一朝] (Āndhra) 紀  
元前 3 世紀末頃から紀元後 3 世紀初めに  
かけてインドのデカン高原から南西海岸  
一帯を支配した王国。ドラビダ系。ローマ  
とも海上交易を行なった。仏教が興隆し、  
多くの遺跡がある。サータバーハナ朝。

**あい** [藍] ①タデ科の一年草。高さ約 70  
cm。藍染めの染料をとるため、古くから

各地で栽培されていた。タデアイ。②天  
然染料の一つ。③の葉や茎からとる。主成  
分、インゴ。④→藍色

アイ①



**あい** [愛] ①対象をかけたがえのないもの  
と認め、いつくしむ心。「子へのー」「ーの  
頼り」②異性を恋慕う気持ち。恋。「ーを  
告げる」③何事にもまして、大切にしたい  
と思う気持ち。「学問に対するー」④キ  
リスト教で、神が人類を深くいつくしむ  
こと。→アガペー。⑤(仏)人や物にとら  
われ、執着すること。渴愛。

**アイ** [eye] 目。また、目の形をしたものや  
目の機能をもつもの。

**アイ** [I・i] ①英語のアルファベットの第  
9 字。②ヨウ素(iodine)の元素記号(I)。  
③(生)自家受精によって生じた子孫。世  
代数を右下に I<sub>1</sub>I<sub>2</sub> などと記す。④(数)  
虚数単位(i)。i<sup>2</sup>=-1。

**アイアール** [IR] (information re-  
trieval) →情報検索法?

**アイアールビーエム** [IRBM] (interme-  
diate range ballistic missile) 中距離弾  
道弾。

**アイアールピーティエー** [IRPTC]  
(International Register of Potentially  
Toxic Chemicals) 国際有害化学物質登  
録制度。国連環境計画が有害物質の生産  
状況、環境中の濃度や挙動、毒性、法規制  
などをデータベース化したもの。

**あいあい** [藹藹] (あ) ①なごやかな雰  
囲気が満ち満ちているさま。「和気」②草  
木が盛んに茂るさま。

**あいあい** [藹藹] (あ) ①雲や露が集まり  
たなびくさま。「たたる桜花」②なごやか  
な気分が満ち満ちているさま。

**アイアイ** [aye-aye] 原始的な量長類の  
一種。マダガスカル島特産。体長 40 cm  
ほど。夜行性。毛は長く暗褐色ないし黒色。  
指は細長く後ろ足の第 1 指以外は鉤爪形  
をもつ。ユビザル。

アイアイ



**あいあい** [さ] [相合い傘] (男女が 1 本  
の傘に、二人一緒に入ること。相傘。

**アイアコッカ** [Lido Anthony Lee  
Iaccoca] (1924-) アメリカの経営  
者。フォード社の社長として黄金時代を  
築くが社主により解雇され、ライバル会  
社のクライスラー社に入社し就任し倒産す  
前の同社再建に手腕をふるう。

**アイアス** [Aias] ギリシャ神話の英雄。テ  
ラモンの子。トロイ戦争に出征。アレク

あ

スの死後、オデュッセウスと争って敗れ、復讐しようとしたが発狂、自害。

**アイアン** [iron] (鉄の意) ゴルフで、ボールをたくヘッドの部分が金属製のクラブ。→ウッド

**アイーエー** [IEA] ⇨国際エネルギー機関

**あいこ** [愛育] かわいがって育てること。

**アイダ** [Aida] ベルディ作曲の歌劇。4幕。エジプトにとらわれたエチオピア王の妻アイダとエジプトの将軍ラダメスとの悲恋物語。スエズ運河の開通を記念して1871年カイロで初演。

**あいれない** [相容れない] (通語) 立場や考え方が相反して、互いに受け入れられない。「立場」

**あいり** [藍色] 藍で染めた色。染める回数によって濃淡があるが、普通には暗い青色。藍。

**あいひん** [合印] 帳簿・書類を他の帳簿・書類と照らし合わせたしに押す印。合印。あいじる。

**あいひん** [愛飲] 好んでいつも飲むこと。「日本酒を一する」

**あいうち** [相打ち・相撃ち] (剣道) 両手で相対する二人が同時に相手をうつこと。転じて、勝ち負けのないこと。あいこ。

**あいうつ** [相打ち・相撃つ] (動五) 互いに戦う。「虎虎一つ」

**アイエーイー** [IAEA] ⇨国際原子力機関

**アイエスエフ** [ISF] (International Sports Federation) 国際競技連盟。国際陸上競技連盟などにより、競技種目別に国際的に組織された団体の総称。

**アイエスエルムふんせき** [IS-LM 分析] IS-LM 曲線モデルを用いるマクロ経済分析。財市場と貨幣市場それぞれにおける GNP と利率の関係を表す IS-LM 曲線から両市場の均衡のための財政・金融政策の効果などを分析する。

**アイエスオー** [ISO] (International Organization for Standardization) ⇨国際標準化機構

**アイエスディーエヌ** [ISDN] (Integrated service digital network) デジタル総合サービス網。デジタル化された公衆通信網で、電話・ファクシミリ・データ通信などのサービスを一つのインターフェースを介して利用できる。

**アイエスバランス** [IS balance] 経済全体の投資 (I; investments) と貯蓄 (S; savings) が不一致である、両者をバランスさせるように国民所得や利率率が変化する、こと。貯蓄-投資バランス。

**アイエスピーエヌ** [ISBN] (International Standard Book Number) 国際標準図書番号。書籍の流通業務合理化のため、市販される図書につけるコード。10桁の数字で国・版・社・製品を表示する。

**アイエヌエス** [INS] (information network system) 高度情報通信システム。NTT(日本電信電話株式会社)が、1988年(昭和63)に開始した ISDN の商用サービス。データ通信・情報処理など、高度なサービスを提供する。

**アイエヌエフ** [INF] (Intermediate

range nuclear forces) ⇨中距離核戦力

**アイエフシー** [IFC] (International Finance Corporation) ⇨国際金融公社

**アイエフティーユー** [IFTU] (International Federation of Trade Unions) ⇨国際労働組合連盟

**アイエムエフ** [IMF] (International Monetary Fund) 国際通貨基金。第二次大戦後の国際通貨制度の安定を目指すブレトンウッズ協定に基づき、1945年12月に発足した国連の専門機関。加盟国は出資義務を負い、金・ドルを基軸とする固定相場制の下、為替取引を自由化し、国際収支が悪化した国は資金の融通を受けられることとされたが、73年以降の変動相場制への移行に伴い、その性格をやや変えた。日本は52年に加盟。

**アイエムエフクオータ** [IMF→] (IMF quota) IMF 加盟国の出資割当額。投票権もほぼこれに比例し、IMF と加盟国との関係を律する基本的な基準。

**アイエムオー** [IMO] ⇨国際海事機関

**アイエルエス** [ILS] (instrument landing system) 計器着陸方式。地上からの電波を機上の受信装置で受けて、航空機を正しいコースで着陸させる方式。

**アイエルオー** [ILO] (International Labor Organization) 国際労働機関。1919年ベルサイユ条約に基づいて創設され、46 国国際連合の専門機関となる。政府・労使の代表によって構成され、国際的規模での労働条件の改善を目指し、完全雇用、生活水準の向上、最低賃金の保障、団結権擁護などを活動の基本とする。一国際労働機関憲章

**アイエルオーけんしょう** [ILO 憲章] ⇨国際労働憲章

**アイエルオーじょうやく** [ILO 条約] ILO の総会で採択された、労働の国際基準に関する条約の総称。加盟国がこれを批准すると、国際法としての拘束力をもつことになる。

**アイエルオーはちじゅうなごうじょうやく** [ILO 87 号条約] 「結社の自由及び団結権の保護に関する条約」の通称。ILO において 1950 年に採択。日本は1965 年(昭和40)批准。翌年発効。労働者および使用者の結社の自由に関し規定する。

**アイエルオーひやくにこうじょうやく** [ILO 102 号条約] 1952年にILO が採択した「社会保障の最低基準に関する条約」のこと。医療・失業・老齢など九つの部門の給付に最低基準を定めた。日本は1976 年(昭和51)に批准。

**あいえんか** [愛煙家] タバコが好きの人。**あいえんきえん** [合い縁奇縁・相縁縁縁] お互いに気心が合う合わないかは、みな縁によるということ。

**あいおい** [相生] 兵庫県南西部、相生湾に臨む市。古くは内海航路の風待ち港。山陽道の宿駅。造船とその関連工業が発達。

**アイオー** [I/O] (input/output) 入出力。また、入力装置や入出力インターフェースをさすこともある。

**アイオーシー** [IOC] (International Olympic Committee) 国際オリンピック

委員会。1894 年創立。オリンピック大会の国際的統轄機関。→NOC

**アイオージャー** [IOJ] (International Organization of Journalists) ⇨国際ジャーナリスト機構

**アイオーひょう** [IO 表] ⇨産業連関表

**あいおち** [相落ち] 一方が決済されると、相手方のもう一方も決済されること。

**あいおちこぎ** [相落ち小切手] 他行小切手による入金を見返りにして振り出した小切手。一方が不渡りになれば、他方も不渡りになる。

**アイオリス** [7 sauce aioli] すりつぶしたニンニク・卵黄・オリーブ油・レモン汁などを混ぜた冷製料理用ソース。

**アイオロス** [Aiolos] ギリシア神話の風の神。浮き漂うアイオリア島の支配者。

**アイオブ・ライオン** アメリカ合衆国中西部の州。ミシシッピ・ミズーリ両河の間に位置する。低平な地域で、トウモロコシ地帯の中心。州都デモイン。

**あいか** [哀歌] 悲しい気持ちを表した詩歌。エレジー。

**アイガー** [Eiger] スイス中部、アルプス山脈の高峰。海拔3970m。

**あいかぎ** [合い鍵] その鍵に合わせて作った別の鍵。

**あいかた** [合] ①邦楽で、唄や踊りを伴わず、主に三味線だけを聞かせる部分。合いの手より長いものをいい、長明に多い。②歌舞伎で、幕開き・幕切れなどに演奏される三味線曲。

**あいかた** [相方] ①相手。特に、三味線の伴奏者。また、万歳などの相手役。②(敵) 姐とも書く) 遊郭で、客の相手をつとめる遊女。

**あいかた** [藍型] 藍の濃淡で模様を表した型染め。沖風のものが知られる。

**アイがたこう** [1 形綱・型綱] 断面が1形の形綱。建築物の梁などに用いる。

**アイカメラ** [eye camera] 角膜に光を投射し、眼球の運動を反射光の動きで連続的にとらえる装置。

**あいかも** [間鷗・合鷗] アオクビアヒルとマガモとの雑種。肉を食用とする。アヒルガモ。ナキアヒル。

**あいかわ** [相川] 新潟県佐渡島西部の町。佐渡金山とともに盛衰。

**あいかわ** [愛川] 神奈川県北部、愛甲郡の町。丹沢山地東麓に位置し繊維工業が盛ん。

**あいかわよしすけ** [結川義介] (1880-1967) 実業家。山口県生まれ。東大卒。久原房之助の義兄。日産コンツェルンの創設者。

**あいかわらず** [相変わらず] (副) 以前と同じように。

**あいかん** [哀感] もの悲しい感じ。

**あいかん** [哀歎] 悲しみと喜び。

**あいかん** [哀顔] 切に頼り頼むこと。

**あいがん** [愛玩・愛畜] 大切にし、かわいがること。多く小動物や器物についていう。→動物物

**あいき** [暖気] おくび。げっぷ。

**あいき** [愛機] 使い慣れて、大切にしている写真機などの機器。また、愛用の飛行機。

**アイギ** [Gennadii Nikolaevich Aigi] (1934- ) ユーバシ系のロシアの詩人。初

めはチャプリン語で詩を書くが、後にロシア語でも書くようになる。複雑な隠喩とイメージを駆使する実験的な作風で、現代ロシア詩の可能性を追求。

**アイギス** [aigis] ゼウスとアテナの持ち物の一つ。アテナのそれは、肩から羽織られ小じい肩掛けもしくは胸当てに似、普通多数の蛇の房で縁取られ、うろこ状の蛇の中央にゴルゴンの首をもつ。

**あいぎょう** [合気道] 古流柔術の一派からおこった武術の一。関節技・当て身技を用いて、徒手で相手を制する格闘技。

**あいさく** [相客] ①宿屋で、同室に泊り合わせた客。②人の家などを訪ねたとき、またまたそこに居合わせた客。

**アイキャッチャー** [eye-catcher] 広告で、人の目を引き付けるもの。また、特定の会社や製品を連想させる絵や図柄。

**アイキュー** [IQ] {intelligence quotient} ⇒ 知能指数

**アイキューせい** [IQ 制] {import quota system} 輸入割当制。特定品目について輸入を制限するため輸入数量を割り当てる制度。制限品目を輸入するときは、通商省に申請して輸入割当証明書の交付を受ける。

**あいきょう** [愛郷] 自分の故郷を愛すること。「一心」

**あいきょう** [愛嬌・愛敬] {愛し敬う意の「愛敬が」から転じた語} ①言葉や振る舞いが愛らしく、人から好かれること。「一のあきょう」②好ましさを感じさせたり、笑いを誘うような言動や表情。「一を振るまう」

**あいきょう** [愛嬌] 子持ち鮎の卵以外の内臓を取り去り塩漬にしたのち、水洗いして干した食品。

**あいきょうげん** [間狂言] 能一曲の演奏で、狂言方の受け持つ部分。シテの中入りの間に登場して曲の主題を説明する語り口が最も一般的。間の狂言。能間狂言。

**あいきょうび** [愛敬日] ⇒ 恩恵日

**あいぎん** [愛吟] 好きで、よく口ずさむこと。

**あいこう** [阿育王] ⇒ アショカ王

**あいこう** [合口] ①(「匕首」とも書く) つかのない短刀。匕首。九寸五分。②刀剣で、つかをつけず、柄口端と鞘口端が合うようにこしらえ。合口拵。③物事をするときの、相手との調子・具合。相性。「一が悪い」

**あいけるしい** [愛くるしい] (形) (子供などがたいへんかわいらしい。「一い笑顔」)

**アイグンじょうやく** [愛理条約] 1858 年 中国黒竜江省の愛理で、清と結んだ条約。アムール川以北をロシア領、沿海州を両国の共同管理地区とした。

**アイグニス** [Aiguis] ギリシア神話の伝説上のアテナイ王。テセウスの父。怪物ミノタウロスで退治したテセウスが無事帰国の場合を白帆を張るようという約束を忘れて黒い帆のまま帰還したため、舟が死んだと思い海に身を投じた。エーゲ海の名はこれにちなむ。

**あいけん** [愛犬] ①かわいがって飼っている犬。②犬をかわいがること。「一家」

**アイゲン** [Manfred Eigen] (1927-) ドイツの物理化学者。高速の化学反応の

速度測定法として緩和法を確立、高速化学反応の機構を解明。生物体の化学反応の速度の研究も行う。

**あいこ** [相子] ①互いに、勝ち負けのないこと。②双方に損得・優劣のなくなった状態。「これでおーだ」

**あいこ** [愛顔] ひいきにすること。「御一に感謝する」

**あいこ** [藍子] スズキ目の海魚。全長 30 cm 内外。緑がかった暗褐色で、一面に小斑点がある。ひれに毒腺をもつとげがある。食用。幼魚をバリコという。

**あいこ** [愛護] かわいがって、大事にすること。「動物一週間」

**あいこう** [愛好] ある事を好み楽しむこと。「歌舞伎一家」

**あいこう** [愛校] 自分の学んでいる学校や母校を愛すること。「一心」

**あいこう** [哀号] 悲しんで激しく泣き叫ぶこと。

**あいこく** [哀哭] 声をあげて悲しむ泣くこと。

**あいこく** [愛国] 自分の国を愛すること。「一心」

**あいこくこうとう** [愛国公党] ①日本の最初の政党。1874 年(明治 7)佐藤謙で下野した板垣退助・江藤新平らが結成。民権議院設立白書を左院に提出。②1890 年(明治 23)板垣退助が組織した政党。第 1 回総選挙後、自由党・大同倶楽部と合同して憲章自由党となる。

**あいこくしや** [愛国社] 1875 年(明治 8)立志社が中心となり、全国の政社を糾合した全国的民権組織。80 年国会期成同盟と改称。国会開設運動を展開。

**あいことば** [合言葉] ①味方であることが確認できるように、前もって定めておく合図の言葉。②同志・仲間的主張や目標を示す言葉。モットー。

**アイコン** [iconics] アメリカの経済学者ボードレングの用語。人間の多くのイメージを研究する学問。イメージ学。

**アイコンクラズム** [iconoclasm] ⇒ 偶像破壊

**アイコン** [icon] コンピューターに与えるコマンドを記号や図形で画面上に表示したもの。その部分をマウスなどで指定・操作してコマンドを実行させる。

**アイコンタクト** [eye contact] 視線を合わせることによって、意志を通ずること。

**あいさ** [秋沙] カモ目カモ科アイサ族の総称。くちばしは細長く、先がかき状に曲がる。アイサガモ。アカサ。アカサガモ。

**あいさい** [愛妻] ①愛している妻。②妻を愛し大切にすること。「一家」

**あいさつ** [間作] ⇒ かんさく(間作)

**あいさつ** [挨拶] ①出会いや別れの時に交す儀礼的な動作や言葉。「初対面の人と一する」②会などで、初対面の人や知り合いの気持ちを伝える言葉。「就任の一」③返答。受け答え。応対。「手紙をやったのに何の一言もない」④儀礼的な通知。「一状」⑤(「御挨拶」の形で)あされた言い方。⑥(「お返し」をいう不良仲間の隠語。「あつて」に行くかな)⑦禅宗で、門下の僧と問答をして悟りの程度を知ること。

**アイサムファイル** [ISAM file] {indexed sequential access method} データベースで、データファイルの索引とし

て使われるファイル。検索の効率向上をはかる。

**あいざめ** [藍鮫] ①ツノザメ目ツノザメ科アイザメ属の海魚の総称。アイザメ・ゲンクロザメなどがある。全長 1m 内外。練り製品の原料。②藍色を帯びた鮫皮。刀の鞘を巻くのに用いる。

**あいざわじけん** [相沢事件] 1935 年(昭和 10)8 月、陸軍中佐相沢三郎が陸軍省軍務局長永田鉄山を刺殺した事件。

**あいざわせいさい** [会沢正志斎] (1782-1863) 幕末の儒学者。水戸藩士。名は安び。藤田鳴鶴に学ぶ。彰考館総裁。藤田東湖とともに藩の尊攘運動を指導。著「新論」「及門選範」など。

**あいざわただひら** [相沢忠洋] (1926-1989) 考古学者。東京生まれ。独学で研究を続け 1949 年(昭和 24)群馬県の岩宿に於いて先土器文化の遺跡を発見、縄文期以前の時代研究の端緒を開いた。

**あいさい** [愛餐] キリスト教会で、礼拝のあと信徒が共同でする食事。古くは聖餐と密接に結びついていた。アガペー。

**あいし** [間紙] 物と物との間に挟む紙。

**あいし** [哀史] 悲しい出来事をつづった記録。「女工」

**あいし** [哀詩] 悲しい気持ちをうたった詩。

**あいし** [愛児] 親がかわいがっている子。

**アイシー** [IC] ①(integrated circuit) 集積回路の一つ。数 mm 四方のシリコンまたはガリウムと素子の半導体を加工して、多数の回路素子を組み込んだ電子回路として機能するようにしたものの、小型・軽量で消費電力が小さく、コンピュータをはじめ、多くの電気製品に用いられる。②⇒インターチェンジ

**アイジー** [Ig] (immunoglobulin) ⇒ 免疫グロブリン

**アイシーエフティーユー** [ICFTU] (International Confederation of Free Trade Unions) ⇒ 国際自由労連

**アイシーカード** [IC card] IC・LSI などのメモリーを組み込んで、多量の情報を記憶できるようにしたカード。

**アイシーショー** [ICC] (International Chamber of Commerce) ⇒ 国際商業会議所

**アイシージェー** [ICJ] ⇒ 国際司法裁判所

**アイシービービー** [ICBM] {intercontinental ballistic missile} 大陸間弾道弾。

射程約 6400km 以上の弾道ミサイルの総称。

**アイシービーオー** [ICPO] {International Criminal Police Organization} ⇒ 国際刑事警察機構

**アイシービーシー** [ICBP] {International Council for Bird Preservation} 国際鳥類保護会議。野生鳥類保護のための国際組織。1922 年設立。本部はロンドン。

**アイシーユー** [ICU] {intensive care unit} 重症患者を収容して、最も効果的な治療を行うための病室。酸素 Tent や人工呼吸器などのほか、監視用の各種のモニターや記録装置を備え、医師・看護婦のチームにより常時看護が行われる。集中治療室。

**アイシェード** [eyeshade] 光線よけに



## あ

頭にかぶるひさしのようなもの。

**あいしゃ**【愛社】 自分の属する会社にあつて、そのために尽くすこと。「精神」

**あいしゃ**【愛車】 気に入ってよく乗っている車。

**あいじゃく**【愛着・愛著】 ①(仏)むさぼりの心をもって、物にとらわれること。渴望。②(愛)愛着。

**アイシャドウ**【eye shadow】 目元に陰影をつけるために、まぶたに塗る化粧品。

**あいしゅう**【哀愁】 もの悲しい感じ。

**あいしゅ**【愛主】 ①本が好きで大事にすること。「一家」②愛読している本。

**あいしゅう**【相性・合性】 ①男女・友人・主従などが、互いに性格がよく合うかどうかということ。「彼とはどうも一が悪い」②(合)口。「横綱とは一がい」

**あいしゅう**【愛妾】 気に入りのめかけ。

**あいしゅう**【愛称】 本名以外の、親しみをこめて呼ぶ呼び名。ニックネーム。

**あいしゅう**【愛唱】 その歌が好きでよく歌うこと。「一歌」

**あいしゅう**【愛讀】 詩文を好んで、常に口ずさむこと。

**あいじゅう**【愛情】 ①人や物を心から大切に思う気持ち。いづくしみの心。「一を注ぐ」②異性を恋しく思う心。

**あいじゅう**【愛嬌】 かわいがり、大切にしている娘。他人の娘についていう。

**あいじゅう**【哀傷歌】 ①人の死を悲しむ悼む歌。②古今集以後の勅撰和歌集で、部立ての一。

**あいじるし**【合印】 ①器物が組であることを示すために、蓋と身などに付けておくその印。②(合)標とも書く。裁縫・木工などで、二つの物を合わせる時、すれないうように合わせる目印をつける印。③(合)印。

**あいじん**【愛人】 ①情婦。情夫。情人。②人間を愛すること。「敬天一」

**あいしん**【愛新】 中国、清王朝皇帝の姓。満州語のアイシンギョロに漢字を当てたもの。

**アイシング**【icing】 ①粉砂糖・バター・卵白などを泡立て、菓子類の表面にかぶせるもの。糖衣。②着水。③水で冷やすこと。④アイス・ホッケーで、レッドラインの手前から打ったバックが直接相手のゴールラインを越えること。アイシング・ザ・バック。

**あいす**【愛す】(動五) 愛する。

**アイス**【ice】 ①氷。②アイス・クリーム。アイス・キャンデーの略。

**あいす**【合図】 あらかじめ決めた方法で相手に意思や事柄を知らせること。また、その方法や信号。「一を送る」

**あいす**【会津】 ①(会)会津。②(会)会津。

**アイスアリーナ**【ice arena】 水上競技用の競技場。スケート・リンク。

**アイスキャンデー** (和 ice + candy) 水または果汁に甘味料・香料などを加え、細い棒を軸にして凍らせた棒状の菓菓子。キャンデー。

**アイスキューブ**【ice cube】 製氷機・冷蔵庫でつくった角氷。

**アイスキュロス**【Aiskhylos】 前525-前456)古代ギリシアの三大悲劇詩人の一人。神の摂理と正義の勝利を、豊富な空想力と雄大な構成をもって描いた。80年

いし 90 にのぼる作品中「ペルシャの人々」に「縛られたプロメテウス」「アガメメンノ」など7編が現存。

**アイスクラス** (ice cracked glass) ガラス工芸の加飾法の一。高温のガラス製品を瞬間水に浸して表面をひびでおお

い、氷のように見せる技法。

**アイスクリーム**【ice cream】 生クリームに卵・砂糖・香料・ゼラチンなどを加えて凍らせた菓菓子。厚生省令では、乳固形分15%以上、うち乳脂肪分8%以上のもの。

**アイスクリームサンデー** (和 ice-cream + sundae) ⇒サンデー

**アイスコーヒー** (iced coffee) 氷を入れた冷たいコーヒー。

**アイスショー**【ice show】 アイス・スケートによる軽演劇・ダンスなどのショー。

**アイススケート**【ice skate】 ⇒スケート

**アイスゼンリょう**【一染料】 ⇒氷染染料

**アイスダンス**【ice dance】 フィギュアスケートの一部門。男女一組で、音楽に合わせて氷上を躍るように滑走し技術と芸術性を競う。

**アイスティー** (iced tea) 氷を入れた冷たい紅茶。

**アイスハーケン**【F Eishaken】 水壁登攀に用いる金属性の釘。

**アイスバートン**【F Eisbahn】 雪面が凍結して氷のようになった状態。

**アイスバール**【F Eisbein】 ドイツ料理の一。塩漬にして豚の脚を煮込んだもの。

**アイスピック**【ice pick】 氷を細かく砕くための道具。

**アイスフォール**【icefall】 水の滝。水河が急斜面を滑り落ちる所や水河の支流が主流と合流する所などに生じる。表面に裂け目ができ、危険。水溜り。

**アイスペール**【ice paint】 割り水を入れて卓上おもて。容器。

**アイスボックス**【icebox】 氷を使う冷蔵庫。特に、携帯用の水冷蔵庫。

**アイスホッケー**【ice hockey】 氷のリンク上でスケート靴をはいて行うホッケー。1チーム6人、スティックでバックをゴールに打ち込んで得点を争う。

**あいずみ**【藍住】 徳島県北東部、板野郡の町。徳島市と鳴門市の間に位置し、明治中期まで阿波藍の産地。

**アイスマルク** (和 ice + milk) ①水でひやしたミルク。②アイス・クリーム類のうち、乳固形分10%以上、うち乳脂肪分3%以上を含むもの。厚生省令で規定される。

**あいす・む**【相済む】(動五) 申し訳が立つ。多く否定の形で謝罪の意を表すのに用いる。「まことに一みません」

**アイソヨット**【ice yacht】 左右一対と後部には滑走具を取り付けて水上を走らせるヨット。また、それで行う競技。スウェーデンで盛ん。

**アイスランド**【Iceland】 北大西洋にあるアイスランド島を領土とする共和国。1918年デンマーク王を共通の元首とする独立王国となり、44年共和国として完全に独立。火山と温泉が多く、主産業は漁業・水産物加工業。首都レイキヤビク。面積10万km<sup>2</sup>。人口27万(1995)。水島。正

称、アイスランド共和国。

**アイスランド**【一語】 インド・ヨーロッパ語族のゲルマン語派ノルド語に属する言語。表記はラテン文字を基本とし、いくつかの特殊文字を用いる。他のゲルマン語に比べて、古形を比較的多く残す。アイスランド共和国の公用語。

**アイスランドポピー**【Iceland poppy】 ケシ科の一年草。高さ約50cm。早春、頂に径約10cmの橙紅・黄・濃朱紅色などの四弁花をつける。シベリアヒナゲシ。

**アイスリンク**【ice rink】 ⇒スケートリンク

**あいする**【愛する】(動サ変) ①愛情をそそぎ、いづくしむ。「一する息子へ」②異性を恋しく思う。恋慕。③物事に、美しさ・良さ・価値などを認めて、その物を好む。「詩を一する」④かけがえのないものとして、大切に思う。「祖国を一する」⑤相手を尊重し、温かい気持ちで接する。「民衆を一した政治家」。

**あいせき**【合席・相席】 飲食店などで、知らない人と同じ席につくこと。

**あいせき**【哀惜】 (人の死などを)悲しみ、惜しむこと。「一の念」

**あいせき**【愛惜】 名残惜しく感じること。「行く春を一する」

**あいせつ**【哀切】 もの悲しくあわれなこと。「一きままりない物語」

**アイゼナハ**【Eisenach】 ドイツ中央部、チューリングンバルトの北部に位置する都市。自動車・機械・化学などの工業が発達。保養地としても有名。作曲家バッハの生誕地。

**アイセル**【一湖】 (Jssel) オランダ西部の湖。1932年ゾイデル海が堤防でせき止められて生じた淡水湖。広大な干拓地が造成され、農業と園芸が行われる。

**アイゼン** (シュタイクアイゼン(F Steig-eisen)の略) 登山靴の底につける、とがった爪をもつ滑り止めの金具。クランポン。

**あいぜんかつら**【愛染かつら】 小説。川口松太郎作。1937(昭和12)〜38年(昭和13)連載。未亡人の看護婦と医師との恋愛を描いたもの。38年映画化され、主題歌「旅の夜風」とともに戦時下で大ヒットした。

**アイゼンク**【Hans Jürgen Eysenck】 (1916〜)イギリスの心理学者。ドイツ生まれ。パーソナリティーの精神分析的研究に対する因子分析を用いた実験心理学的研究や、学習理論を応用した行動療法などを提唱。

**アイゼンハワー**【Dwight David Eisenhower】 (1890-1969)アメリカの政治家・軍人。第34代大統領(在任、1953-1961)。第二次大戦中、連合軍総司令官としてノルマンディー上陸作戦を指揮。戦後、大統領として共産圏への巻き返しをはかる一方、朝鮮戦争・インドシナ戦争を解決。

**あいぜんみょうおう**【愛染明王】 愛染の煩惱がそのまま悟りにつながることを示す明王。像は一般に、全身赤色、三目六臂、で弓矢などを持ち、顔には怒りの相を表す。愛染王。

**あいそ**【哀訴】 相手の同情心に訴えること。なげき訴えること。哀願。

**あいそ**【愛想】 (「あいそ(愛想)の転」